

特集：コニカミノルタ ビジネスクローズアップ

「業界をリードする独自技術をベースに

POD市場でトップブランドを目指します」

必要な時に必要な部数を印刷できるPOD（プリント・オン・デマンド）用製品は、「印刷のプロ」が使うため高画質や多様な製本ができることが求められます。これらのニーズに応えるために開発した独自技術と、世界市場でトップブランドを目指すPOD戦略について、コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)常務取締役の児玉 篤が語ります。

Q1 POD用の製品はオフィス用の複写機やプリンタと比べて、どのように違うのですか？

オフィス用の複写機やプリンタは、企業などで使用者自らが使うもので、オフィスプリントと呼ばれます。それに対して、大企業の社内印刷部門やプリントショップ、出版社など「印刷のプロ」が顧客向けに販売・配布する本やチラシなどの印刷物を制作する分野をプロダクションプリントと呼んでいます。その中で、印刷物を必要な時に必要な部数だけ印刷するシステムをPODといいます。

従来、本などの印刷物では、きれいな画像で大量に印刷できるオフセット印刷が主流でした。オフセット印刷は機械も高価で、紙に印刷するためには印刷用の版が必要で、数千部以上を想定した方法です。一方、PODはデジタル印刷なので印刷用の版はいらず、パソコンで原稿用データを作り、それをそのまま

印刷して製本までできます。本1冊やチラシ100枚といった少部数でも対応できます。

Q2 POD市場に参入するため、技術面でクリアすべきことは何でしたか？

PODには少数の印刷物を高速かつ高画質で正確に仕上げるのが求められますが、これまでPODがオフセットに追いつけなかった理由として、カラー画像の画質が劣るという問題がありました。しかし、コニカミノルタでは材料・光学・微細加工・画像という4つの分野で蓄積したコア技術を活かし、オフセット印刷とほとんど変わらない高画質を達成しました。

これは、業界最高クラスの粒子の均一性と小粒径化を実現した「重合法トナー」の開発によるものです。また、高速印刷や両面印刷時の極めて高い印字位置の精度、平綴じから背表紙のある製本まで対応するフィニッ



児玉 篤（こだま あつし）
コニカミノルタホールディングス株式会社 執行役
コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社
常務取締役営業本部長（MFP担当）

フルカラーPOD用製品に凝縮された技術

高速出力で高精細を実現する技術

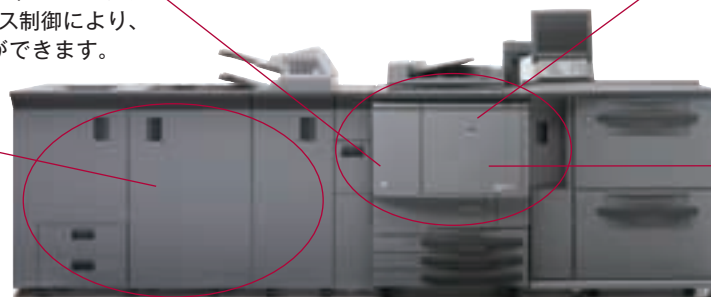
～高精細レーザ露光制御

レーザ駆動のパルス幅変調回路をフルデジタル化しました。レーザユニットの10億分の1秒単位というパルス制御により、各色の画素を高速かつ安定して書き込むことができます。

多様なニーズに応える技術

～POD向け後処理システム

電子複写機開発で長年培ってきた用紙処理技術をベースに中綴じ・平綴じ製本、折り、パンチ穴、くみ製本など様々な後加工が可能な、業界トップクラスの後処理システムを提供しています。



bizhub PRO C6500

高精度印字と画質安定性のための技術

～独自技術“S.E.A.D.”

専用集積回路により、ミクロン単位での画像制御を行い、絵や文字の属性に合わせて最適な処理をします。また、高速印刷時にも安定した画質を確保するための技術も兼ね備えています。

※S.E.A.D.…Screen-Enhancing Active Digital Processing
(スクリーン・エンハンシング・アクティブ・デジタル・プロセッシング)

高画質を追求し、進化した技術

～独自開発の重合法トナー

粒子の小粒径化、形状の均一化により、さらに忠実な色再現が可能となり、オフセット印刷に遜色ない画質の印刷物を作成することができます。また、低温定着特性も向上し、用紙のカールや伸縮を抑制します。

シング技術、高剛性フレームによる耐久性もPODのニーズに応える大きな特長です。さらにコート紙やアート紙といわれる一般のコピー用紙以外の紙に対応し、多様な最終成果物を可能にしたことも「印刷のプロ」の方々に当社製品が受け入れられている理由でしょう。

Q3 グローバルな視点での、今後のPOD戦略を教えてください。

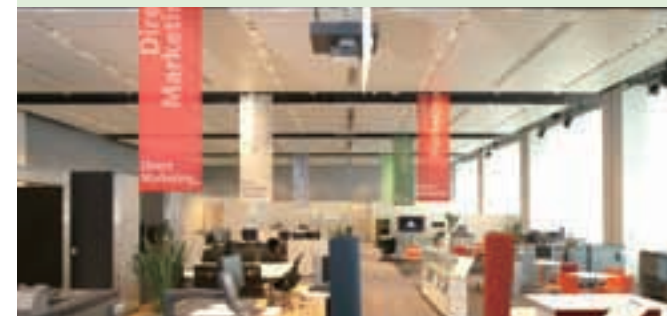
PODには大きな可能性があります。必要な時に必要な部数の印刷物を作れるほか、お客さまごとに異なる印刷物を作ることができます。例えば自動車のダイレクトメールを作る場合なら、お客さまの家族構成に基づいて選んだ車種に絞って、そのお客さまだけの内容にしたレイアウトのものを作ることができます。これは、ひとつの版で同種類のものを大量に印刷をするオフセットではできま

せん。また、出版社や書店では在庫を抱えないので、読者のリクエストに応じ書店で印刷・製本できるPODが歓迎されます。

このように、今後の拡大が期待できるPODでのカラー印刷の市場は日・米・欧が中心ですが、当社のカラーPODはすでにアメリカでトップシェアを獲得しています。現在、世界規模で約1兆円のプロダクションプリント市場は、2010年には1兆3,000億円に拡大すると予想されます[※]。その中で大きく伸びているのは、コニカミノルタが力を入れるカラー商業印刷分野であり、今、2,000億円の市場が2010年には4,000億円になると思われます[※]。当社の情報機器事業の全体売上げに占めるプロダクションプリントの割合は10%強ですが、今後さらに拡大させ、業界をリードする独自技術の強みを活かし、POD市場でトップブランドを目指します。

※当社推定

プロダクションプリントでのソリューションを提供 コニカミノルタ デジタルイメージングスクエア 開設



2007年10月、東京・品川グランドセントラルタワーに「コニカミノルタ デジタルイメージングスクエア」を開設しました。プロダクションプリント市場でお客さまが向き合う問題を、高い専門性を有するスタッフが解決したり、製品などに関する付加価値の高い情報発信を行う拠点です。

<http://konicaminolta.jp/pr/dis>

(お越しいただく場合は、事前予約が必要となります。)

コニカミノルタ ビジネススクローズアップ
今回は、「オプト事業」に注目します。お楽しみに。